

# 藝民劇団 集金旅行

## 言わせて! 今日の芝居 十字劇評 No.38

【六〇代】

▼面白かった！楽しかった！7番さんが可愛らしかった！それにしても、男って……ですね。

▼旅館など、松竹新喜劇のような場面もあり。民藝らしからぬドタバタ調も。男女の色恋がらみで、意外におもしろ。

(女性)

▼チラシ裏面の檜山文枝さんの文章、「風韻ただようこの二人旅」。この作品の内容

をうまく表現していると思う。何とも可笑しくて粋な二人旅。何気ない動作や言葉から思わずくすつと笑ってしまう。そんな可笑しさがよく出ていたと思う。ただ、いかにも笑いを取ろうという場面もあり、そこるところは仄かな笑いに徹してほしかったなと思う。檜山さんと西川さん、可笑しくて奇妙な二人旅を好演していたと思う。脇を固める他の出演者も良かった。次第に心を寄せ合う二人、檜山さんの「友情6割、後の4割はヒミツ」という台詞が可笑しかった。

(男性)

▼作品はどこか夢があり楽しく観劇！存在感バツチリの檜山さん・西川さん、ほっこりとしたコメディで気持ち

(女性)

▼今のテレビの「おわらい」とは違い、本当に楽しく笑

いました。ユーモアに富んだたしかな演技で、大変満足することができました。また、鉄道で訪れる地方も、舞台背景によく表現されていて良かった。

(女性)

(男性)



▼今年一番観たかった舞台!! 今冬一番の吹雪の夜に、私にとつて「永遠のおはなはん」。今年の断トツのベストワン！憧れの檜山文枝さんの演技を前から三列目の中央の特等席で観れて、最高に幸せな師走の一夜でした。この日一日、降雪で疲れていた私に最高の癒しのプレゼントでした。宇野重吉のDNAを引き継ぐ劇団民藝の底力と井伏鱒二の原作の魅力とちよつと乾いたユーモアセンスが満点で、この舞台を観れて、一年間会費を納め続けた甲斐があった。今度はゼヒ、(エリザベス)文枝さんと栗原小巻さんとの共演で「メアリ・スチュアート」を観たい！

(夢です！)

(男性)

▼檜山さんの妖艶な演技にはさすがだなと魅せられましたが、静かな喜劇と銘打っ



ていましたが、笑いがどうもしつくり入ってきませんでした。喜劇は難しいと言われていますが、さすがの民藝でも…。(男性)

▼榎山文枝さんが若々しく驚きました。お話の内容は、成果が良くて集金しても楽しかったろうな。二人にからむ人々がコメディタッチで、観ていてストレス発散して帰りました。

【七〇代】

▼深刻な状況を時にはクスツと笑える芝居にしたのか。「節度」をほめ言葉にしていた私の夫の魂と共に観た。(女性)

▼心地良い幕間のナレーターと舞台転換、そして10号室と7号室のテンポの良いかけ合い。今回の銅鑼表紙の榎山文枝のにお絵もすてき!!(女性)

▼長時間が短く感じられる、切なくも楽しい芝居でした。榎山さん素晴らしい。年齢を感じない動きは感動、期待どおりでしたね。(女性)

▼コマツランコは、カワイイ!でも、男に媚びない!魅力的でした。高齢な私にとって、笑いながらゆるやかな時でした。

▼2番目に楽しみにしていたお芝居でしたが少しがっかり。ナレーションのおかげで内容は、わかりました。が、ときどきセリフがわからず期待はずれでした。井伏鱒二といったら私は「黒い雨」しか思い出しませんでした。こんな面白い内容の本も書いていたのですね。ありえないような話ですが、お芝居を観ていたら、昭和の初めならありかもと思っただけです。

▼おもしろい芝居でした。井伏鱒二原作ってどんな芝居になるのか何の予備知識もなく見ましたが登場人物皆良かった。(女性)

▼おもしろい芝居でした。井伏鱒二原作ってどんな芝居になるのか何の予備知識もなく見ましたが登場人物皆良かった。(女性)

編集スタッフから

「鉄は熱いうちに打て」と言いますが、「劇評は忘れないうちに投稿」を。特に、次回投稿締切まで1週間しかありません。このピンチをチャンスに変えましょう。

50字劇評「言わせて!今日の芝居」に投稿を!

ここは、会員が「芝居を自由に語る場」です。率直な感想をお寄せください。

署名 “不審”です。参考のため「男女」・「～歳代」は記入をお願いします!

字数 “50字”は目安、思いがあふれてもノーカット。原稿はお返しできません。

締切 2020年3月6日(金) (座席シール発行最終日です。)